

ユーカヌバ ベテリナリーダイエット

ケースレポート

Dアシスト KO
セレクト・プロテイン

[犬用] 編



Dアシスト KO セレクト・プロテイン

食物アレルギーに (*カンガルー肉、オーツ麦、キャノーラを除く) 関連する皮フや腸のトラブルを 抱える犬に。

特長



代謝エネルギー (ME):
353kcal / 100g
80g / カップ (200cc)
内容量:
1kg, 3kg

・粒サイズ・色には多少のばらつきがあります。



1 特定のたんぱく質源 (カンガルー) と炭水化物源 (オーツ麦、キャノーラ) を使用

カンガルー肉、キャノーラ、オーツ麦を除く食物アレルギーに関連する皮フや腸のトラブルを抱える犬の為の食事管理を栄養学的にサポートします。

2 オメガ-6 脂肪酸とオメガ-3 脂肪酸が適切な比率で調整

皮フ・被毛の健康維持をサポートします。皮フ・被毛疾患において生じる炎症の程度は、フードに含まれるオメガ-6 脂肪酸とオメガ-3 脂肪酸の比率に影響されます¹。この比率を 5 : 1 に目標設定すると、組織中の低炎症性メディエーターに対する高炎症性メディエーターの相対的な産生量が低下するため¹、皮膚疾患のある犬に適しています。

3 プレバイオティクスであるフラクトオリゴ糖 (FOS) 配合

ユーカヌバ D アシスト製品は、質の良い便の状態を維持するための適度な食物繊維や、腸内細菌の健康的なバランスをサポートできるビートパルプとプレバイオティクスであるフラクトオリゴ糖など、胃腸の健康維持に必要な栄養がバランスよく配合されています。

4 マイクロクレンジングクリスタル配合

粒を噛むことで、新たな歯垢・歯石の蓄積を抑えます。

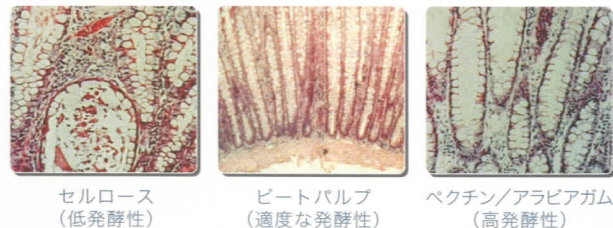
マイクロクレンジングクリスタル配合のフードを



28日間食べた場合

そうでない場合

発酵性繊維質の腸への影響²



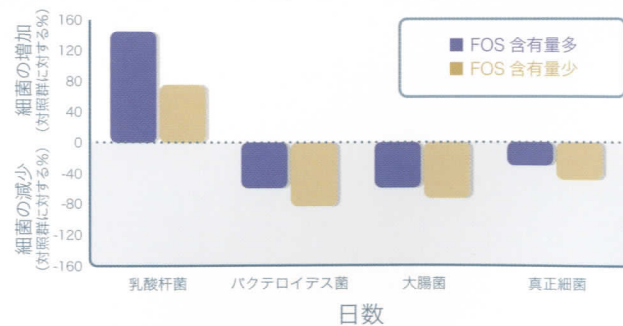
セルロース (低発酵性)

ビートパルプ (適度な発酵性)

ペクチン/アラビアガム (高発酵性)

「フラクトオリゴ糖の研究 (犬)」

フラクトオリゴ糖により、善玉菌が増加し、腸内環境の維持が確認できた³



保証分析値

たんぱく質	19.0% 以上
脂質	12.0% 以上
粗繊維	4.0% 以下
灰分	8.9% 以下
水分	10.0% 以下
オメガ-6 脂肪酸	1.2% 以上
オメガ-3 脂肪酸	0.24% 以上



この療法食の適応

- 炎症性の皮フ・被毛の疾患
- そう痒性皮フ炎 (アトピー性、ノミ性、接触性)
- 食物アレルギー
- 慢性外耳炎
- 肛門周囲腫
- 食物アレルギーによる胃腸障害
 - 炎症性腸疾患 (IBD)
 - 大腸炎
 - 慢性胃腸炎
 - 嘔吐
 - 腸内の病原性細菌の異常増殖
 - 吸収不良/消化不良

推奨できない病態等

- カンガルーに対するアレルギー
- オーツ麦に対するアレルギー
- キャノーラに対するアレルギー

原材料名

オーツ麦粉、カンガルー、キャノーラ粉、動物性油脂、乾燥ビートパルプ、フィッシュオイル、フラクトオリゴ糖、DL-メチオニン、ビタミン類 (塩化コリン、E、C、A、パントテン酸カルシウム、ピオチン、B1、B12、ナイアシン、B2、イノシトール、B6、D3、葉酸)、ミネラル類 (リン酸一水素カルシウム、炭酸カルシウム、食塩、ヘキサメタリン酸ナトリウム、塩化カリウム、硫酸第一鉄、酸化亜鉛、硫酸マンガン、硫酸銅、酸化マンガン、ヨウ化カリウム、炭酸コバルト)、酸化防止剤 (ローズマリー抽出物)

REFERENCES:

1. Adapted from Chew BP, Park JS et al. 2000. In: Recent advances in canine and feline nutrition. Vol 3. 2000; Iams Nutrition Symposium Proceedings. Reinhart GA, Carey DP, eds. P55-67.
2. Reinhart GA, Moxley RA, Clemens ET. Source of .S3072-S1072:421 4991 rtuN J .sgod elgaeb fo ygolohaptosih dna noitcnuf .erutcurtsorcim cinoloc no stceffe sti dna reb fi yrateid.
3. P&G Pet Care Case Study 2009, Data on file.

他製品紹介

Dアシスト FPセレクト・プロテイン [犬用]
特定のたんぱく質源 (魚) と炭水化物源 (ポテト) を使用し、魚、ポテトを除く食物アレルギーに関連する皮フや腸のトラブルを抱える犬の為の食事管理を栄養学的にサポートします。



内容量: 800g, 3kg, 5kg, 12kg

原材料名

ポテト、魚粉、動物性油脂、乾燥ビートパルプ、フィッシュダイジェスト、フラクトオリゴ糖、ビタミン類 (E、C、A、パントテン酸カルシウム、ピオチン、B1、B12、ナイアシン、B2、イノシトール、B6、D3、葉酸、塩化コリン)、ミネラル類 (リン酸一水素カルシウム、炭酸カルシウム、ヘキサメタリン酸ナトリウム、塩化カリウム、硫酸第一鉄、酸化亜鉛、硫酸マンガン、硫酸銅、酸化マンガン、ヨウ化カリウム、炭酸コバルト)、DL-メチオニン、酸化防止剤 (エトキシキン、ローズマリー抽出物)

Dアシスト FPセレクト・プロテイン [犬用] 缶
特定のたんぱく質源 (魚) と炭水化物源 (ポテト) を使用し、アレルギーに関連する皮フや腸のトラブルを抱える犬の為の食事管理を栄養学的にサポートします。



内容量: 396g

原材料名

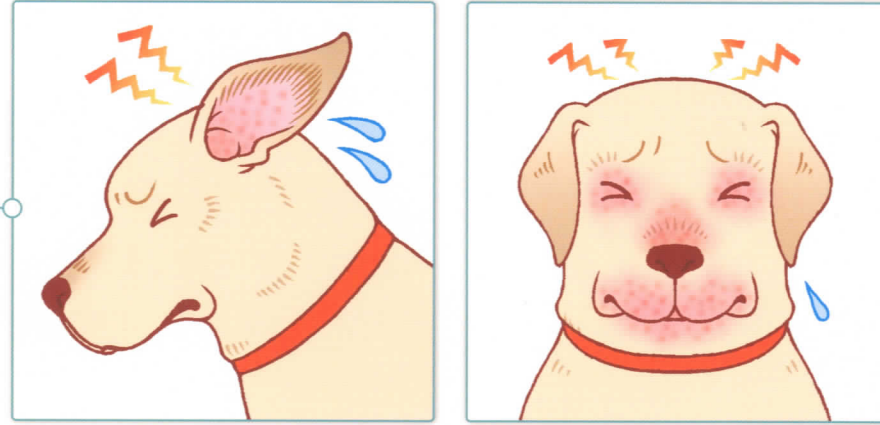
水分、食用ナマズ、ニンシ粉 (フィッシュオイル源)、ポテトスターチ、コーンオイル、乾燥ビートパルプ (糖質除去)、増粘安定剤 (カラギナン、グアーガム)、ビタミン類 (E、C、B1、A、パントテン酸カルシウム、ピオチン、B12、ナイアシン、B2、イノシトール、B6、D3、葉酸、塩化コリン)、ミネラル類 (炭酸カルシウム、塩化カリウム、硫酸第一鉄、酸化亜鉛、硫酸マンガン、硫酸銅、酸化マンガン、ヨウ化カリウム、炭酸コバルト)

※ 缶製品はアイムスペリナリナーフォーミュラブランドです。

ケース ①

卵白、小麦に陽性反応を示した食物アレルギーの症例

主 訴 耳の痒みと赤み



犬種	ウェルシュ・テリア
性別	雌
年齢	2歳
体重	6.8kg

初診時所見・既往歴
両耳介の掻痒、発赤
顔面に数カ所の発疹、
口唇周囲、眼瞼周囲に強い発赤
慢性的に外耳炎の再発を繰り返し、外用剤にて治療していた。

検査結果
アレルギー特異的 IgE 検査：ノミ、ゴキブリ、
アキノキリンソウ、ギョウギシバ、トウモロコシ、米
リンパ球反応検査：
1.8%以上・・・卵白
1.2-1.7%・・・小麦、ジャガイモ、米
0.4-1.1%・・・豚肉、鶏肉、大豆、トウモロコシ

診断名
食物アレルギー
(卵白、小麦、ジャガイモ、米)

考察と担当医からのコメント
リンパ球反応検査で小麦に反応があったので、KOの原材料であるオーツ麦との交差反応に不安があったものの KO の選択により改善された。
オーナーの理解が得られ、おやつも KO にするなど徹底した食事管理が出来たことが効を奏したと思われる。

治療
内服薬、外用薬の処方なし

コンビネーション
Dアシスト KO セレクト・プロテイン使用開始

結果とフォローアップ
1週間程度で耳介の症状もほとんど治まり、
現在のところ再発の兆候なし。

ケース ②

療法食で長期管理されていたアトピー性皮膚炎の再燃症例

主 訴 眼の周囲の脱毛



犬種	トイ・プードル
性別	避妊雌
年齢	6歳
体重	8.0kg

初診時所見・既往歴
両側性の眼周囲の脱毛、発赤、腫脹、眼漏
4年前に炎症性腸炎および犬アトピー性皮膚炎と診断され、他社アレルギーフリー食を継続

検査結果
IgE 検査：牛肉とジャガイモに要注意レベル
ニホンスギ、大豆、トウモロコシ、羊肉、米に反応
リンパ球反応検査：小麦、大豆、タラ、ジャガイモ、
米に陽性、トウモロコシ、七面鳥、シヤモに要注意

考察と担当医からのコメント
今回は、KO の変更によって症状の改善が実感できた症例であった。便も KO へ変更後から形のある状態となり、今までにない良い状態の便になった。

治療
ステロイド内服、
インターフェロン γ の注射

コンビネーション
Dアシスト KO セレクト・
プロテインに変更

結果とフォローアップ
ステロイドおよびインターフェロンは漸減投与ができ、
眼瞼の腫脹・充血・脱毛ともに改善されてきている。

ケース ③

難治性の皮膚病症例

主 訴 皮膚病がなかなか治らない



犬種	ミニチュア・ダックスフント
性別	去勢雄
年齢	3歳
体重	6.8kg

初診時所見・既往歴
他院にて長期に渡りステロイドと免疫抑制剤の処方を受けていたが、痒みを伴う皮膚病が改善せず当院を受診

検査結果
リンパ球反応検査：牛肉、豚肉、鶏肉、卵白、大豆、
タラ、ジャガイモ、米等に陽性

考察と担当医からのコメント
本症例では皮膚疾患対応療法食であっても、使用されている原材料によって反応を起こし症状が出たケースだったと推測している。

治療
ステロイド、
免疫抑制剤の投与

コンビネーション
Dアシスト KO セレクト・
プロテインに変更

結果とフォローアップ
他院にて処方されていた加水分解タンパク食から、アレルギー検査結果に基づき他社皮膚疾患対応療法食に切替えたが、1ヵ月後に症状の悪化を認める。そのため、KO に再度食事を変更。変更後はステロイド、免疫抑制剤共に漸減し、2ヵ月後には完全に休薬することが出来た。

ケース④ ジャガイモと牛・豚・鶏肉に陽性反応を示した食物アレルギーの症例

主訴 体の痒み

Patient

犬種	フレンチ・ブルドッグ
性別	雌
年齢	2歳7ヵ月
体重	10.7kg



初診時所見・既往歴
下顎～頸部、四肢端（指間）の発赤、痒み

検査結果
リンパ球反応検査：牛肉、豚肉、鶏肉、卵白、卵黄、トウモロコシ、アヒル、シシャモ、ジャガイモ、米に陽性
皮膚掻爬試験：四肢端および指間のダニ（-）

治療
痒みの状況に応じてステロイド内服
膿皮症発症時には抗生物質併用

コンビネーション
Dアシスト KO セレクト・プロテインに変更

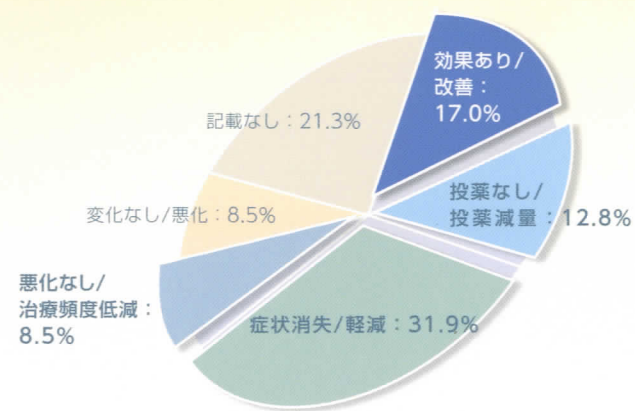
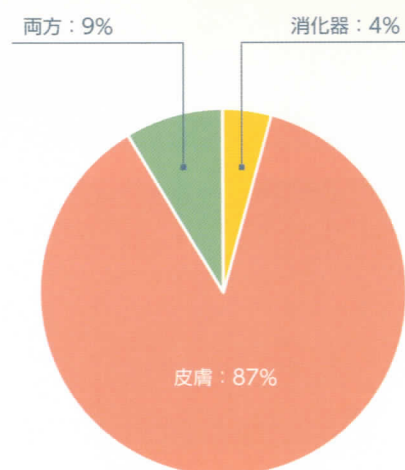
結果とフォローアップ
時折、四肢端に発赤がある程度で、以前痒みのあった下顎～頸部は発赤もなく落ち着いている。

考察と担当医からのコメント
食物アレルギーの治療において療法食を選択する際には製品の成分が一番重要と考えている。今回の症例ではKOの主原料がカンガルーとオーツ麦なのでアレルギー反応が比較的良好に抑えられていると考えている。また、嗜好性も良く便の状態も安定している。

こんな症状にDアシスト KO セレクト・プロテイン [犬用] 編

◆使用目的症状の割合

今回DアシストKOセレクト・プロテインは、約9割が皮膚に関連するトラブルの症例に選択されました。本製品は、カンガルーおよびオーツ麦、キャノーラといった原材料を使用しているため、チキン・ラムなどの普段口にしやすいたんぱく質による食物アレルギーに関連するトラブルを抱える犬の食事管理に幅広くご選択いただけます。



*47症例より選出

◆使用後の状況について

今回ご協力いただいた約70%の症例で、症状の軽減や投薬量の減量など改善傾向が確認されました。

ケース⑤ アレルゲンフリー食から KO への変更により軟便が改善された食物アレルギーの症例

主訴 皮膚の痒み



Patient

犬種	チワワ
性別	去勢雄
年齢	7歳
体重	2.0kg

初診時所見・既往歴
皮膚の痒みと軟便
二次診療機関にて検査を受け、他社アレルゲンフリー食を選択されていた

検査結果
アレルギー検査（二次診療機関）：鶏肉に陽性

治療
投薬治療なし

コンビネーション
Dアシスト KO セレクト・プロテインに変更
(KOには鶏肉が含まれていないため)

考察と担当医からのコメント
今回の症例は小型犬のチワワであったが、フード粒の大きさも気にすることなくよく食べているとのこと、KOの嗜好性は良好だったと考えている。

結果とフォローアップ
1袋使用して痒みも軟便も治まったのでKOを継続。5ヵ月継続した現在も、痒みはなく皮膚状態良好。また、便も正常な状態を維持できている。

ケース⑥ 口周囲に強い掻痒を伴う食物アレルギーが疑われた症例

主訴 口周り、足先、耳を痒がる



Patient

犬種	トイ・プードル
性別	避妊雌
年齢	4歳
体重	7.0kg

初診時所見・既往歴
鼻梁部、口唇、耳介、四肢端の紅斑
特に口周りで症状が強く、掻き壊して出血

検査結果
皮膚掻爬試験：(-)

治療
ステロイド処方*
*ステロイドは1ヵ月ほどかけて漸減

コンビネーション
Dアシスト KO セレクト・プロテインに変更

考察と担当医からのコメント
食物アレルギーの場合には他のものを一切与えないこと、効果が出るまで時間がかかる旨を説明している。そのため、嗜好性の高かったKOは使い易かった。

結果とフォローアップ
ステロイドは漸減の後、最終的に休薬できている。時折、口周りに軽度の紅斑が見られるが、KOの継続で比較的良好な状態が保たれている。

ケース⑦ FPからKOへの変更で顕著な改善がみられたアトピー性皮膚炎の症例

主訴 全身性の皮膚炎



Patient

犬種	シーズー
性別	去勢雄
年齢	10歳
体重	6.9kg

初診時所見・既往歴
全身性皮膚炎
昨夏より全身の脱毛、掻痒、発赤、落屑

治療
インターフェロンγ
(2回/月)

コンビネーション
Dアシスト FP セレクト・プロテインから
Dアシスト KO セレクト・プロテインに変更

考察と担当医からのコメント
DアシストFPからKOに変更し、同時期にインターフェロンを開始して症状の改善が顕著にみられた。フードが切れてしまい、一時的に他のフードを与えたところ症状悪化がみられたので、DアシストKOの効果があると考えている。

結果とフォローアップ
初期治療後、持続型抗生物質の投与とFP使用からインターフェロンとKOに切替えたところ、月に1回のインターフェロンと週1回の程度の薬浴で維持できている。時々、悪化した時も外用ステロイド剤で症状が軽快している。